
新興国の「新しい労働運動」

南アフリカ, ブラジル, インド, 中国

太田仁志 編

アジア経済研究所

目次

まえがき

序 章 新興4か国の「新しい労働運動」

太田仁志 1

はじめに 1

第1節 各国の組織化状況 3

第2節 「新しい労働運動」という視点 7

2-1. 新興諸国における1970年代～1980年代の「新しい労働運動」 7

2-2. 労働運動再活性化の取組みとしての「新しい労働運動」 9

2-3. 「新興国型の新しい労働運動」と「包摂・権利擁護型労働運動」 12

第3節 新興4か国の「新しい労働運動」

——各章の要約と労働運動の異同—— 14

3-1. 検討対象国の選定と各章の要約 14

3-2. 各国の「新しい労働運動」の異同 17

付図表 23

第1章 南アフリカにおける「新しい労働運動」の変遷

——南アフリカ労働組合会議(COSATU)に注目して——

佐藤千鶴子 29

はじめに 29

第1節 南アフリカにおける社会運動ユニオンズムの発展 31

1-1. 労働組合運動と反アパルトヘイト闘争 32

1-2. 労働運動と社会・市民運動の共闘と戦術 36

第2節 民主化に伴う労働運動の変容と再編 38

2-1. 民主化後の労働法制の整備とマクロ経済政策 38

2-2. 人材確保と労働組合民主主義の問題 40

2-3. COSATUの「分裂」と新労働組合連合の結成 41

2-4. COSATU加盟労働組合の構成員の変化 44

第3節 非正規雇用の増加と労働運動 48

3-1. 雇用の非正規化の実態 48

3-2. COSATU加盟労働組合による非正規労働者組織化の
取組みと困難 51

3-3. 労働組合に組織されていない労働者による争議行為と労働運動 54
おわりに 59

付表 略語一覧 67

第2章 ブラジルの「新しい労働運動」から誕生したCUTの変遷

近田亮平 69

はじめに 69

第1節 ブラジルの労働運動の黎明期とCUT(1980年代まで) 70

1-1. ブラジルの労働運動の黎明期 70

1-2. 軍事政権による労働運動への抑圧とCUTの結成 71

第2節 経済的変化とCUT(1990年代) 73

2-1. 経済の安定化と労働・雇用の柔軟化 73

2-2. 多様化するCUTの活動 75

第3節 労働者党政権とCUT(2003～2016年) 79

3-1. 左派の労働者党政権および改革 80

3-2. 分裂するCUTおよびストライキの増減とデモ活動への参加 83

第4節 労働者党政権後と反労働組合なボルソナロ政権発足
(2017～2019年) 87

4-1. 労組納付金の任意化と反労働組合なボルソナロ政権の発足 87

4-2. 苦境に立つCUTなどの労働組合 90

おわりに 92

付表 略語一覧 97

第3章 インドの2つの「新しい労働運動」

太田仁志 99

はじめに 99

第1節 インドの「新しい労働運動」の胎動 101

1-1. 独立系労働組合の台頭 102

1-2. 新興国型の新しい労働運動との相違 105

1-3. 1990年代中盤以降の労働運動の展開	
——独立系労働組合のプレゼンスの拡大と包摂・	
権利擁護型労働運動への注目——	107
第2節 NTUIにみる独立系労働組合とその労働運動の到達点	110
2-1. NTUIの結成と組織構成	111
2-2. NTUIと包摂・権利擁護型労働運動の展開	116
2-3. NTUIの到達点	
——中央労働組合組織(CTUO)認定をめぐって——	117
2-4. 事務局長によるNTUIの自己評価	120
2-5. 独立系労働組合の到達点	121
第3節 インドの包摂・権利擁護型労働運動	122
3-1. 包摂・権利擁護型労働運動を展開する労働組合とその運動	123
3-2. 包摂・権利擁護型労働運動を展開するNGOの例	126
3-3. インドの包摂・権利擁護型労働運動の特性, 運動の外周	130
おわりに	133
付表 略語一覧	139

第4章 中国の2つの「新しい労働運動」	
——1989年天安門事件と2000年代——	山口真美 141
はじめに	141
第1節 中国の「古い労働運動」と「新しい労働運動」前夜	143
1-1. 中国の「古い労働運動」	143
1-2. ストライキ, デモ活動の発生——天安門事件前夜の経済状況——	144
第2節 天安門事件と第1の「新しい労働運動」	146
2-1. 天安門事件の概要	146
2-2. 労働者の事件への参加	147
2-3. 自主管理労働組合「工自連」による労働運動	149
第3節 市場経済体制下における第2の「新しい労働運動」	152
3-1. 天安門事件の流れを汲む労働NGO——「中国労働通信」——	153
3-2. 香港系労働NGO	157
3-3. 労働者自身による労働NGO	160

3-4. 労働弁護士	166
第4節 2つの「新しい労働運動」の継承と断絶	169
4-1. 「新しい労働運動Ⅰ」からの継承	169
4-2. 「新しい労働運動Ⅱ」内部の連携と断絶	170
4-3. 工会改革と「新しい労働運動」	172
おわりに	173
索引	179

索引

【英語語／アルファベット】

AFL-CIO(アメリカ労働総同盟・産別会議) 10
AITUC(全インド労働組合会議) 102, 111, 120
ANC(アフリカ民族会議) 30, 35, 37, 38, 40-43, 59-61
BMS(インド労働者連盟) 105, 120
CCMA(あっせん・調停・仲裁委員会) 39, 55, 58
CGT(労働者総同盟) 83-85
CGTB(ブラジル労働者総同盟) 84
Cividep India(インド・開発と平和への市民社会の取組み) 126, 132
CLB(中国労働通信) 6, 153-156, 170, 171, 174
CLRA(労働調査・行動センター) 126, 127
Conclat(労働者階級の全国会議) 72, 83, 84
Conlutas(闘争の国家協調) 84, 85
COSATU(南アフリカ労働組合会議) 8, 15, 16, 18および第1章
CSB(ブラジル中央労働組合) 85
CTB(ブラジル労働者中央労働組合) 84, 85
CTUO(中央労働組合組織) 99, 107, 108, 117-122, 134
CUT(ブラジル中央統一労働組合) 16, 18および第2章
CWAO(臨時労働者アドバイス・オフィス) 57-59
FAWU(食料関連労働者組合) 36, 43, 58
FOSATU(南アフリカ労働組合連合) 33, 34
FS(労働組合の力) 83
GAFWU(アパレル&ファッション労働者組合) 116, 117
HMS(ヒンド労働者連盟) 112
Intersindical(インター労働組合) 84, 85
INTUC(インド全国労働組合会議) 102-106
KKPKP(有価廃棄物収集労働者労働組合) 123-125
KMU(5月1日運動) 9, 15
NCL(全国労働センター) 108, 110, 118
NCST(労働者新中央労働組合) 84,85

NGO 6, 11-14, 57, 58, 60, 70, 79, 122, 126-132, 142, 152
NEDLAC(全国経済開発労働評議会) 38-40, 44, 49
NTUI(新しい労働組合イニシアティブ) 16および第3章
NUM(全国鉱山労働者組合) 35, 41, 45
NUMSA(全国金属労働者組合) 42, 43, 60, 61
PTS(女性労働組合) 116, 117
SACTWU(南部アフリカ衣料繊維労働者組合) 47, 48, 51, 52
SACCAWU(南アフリカ商業ケータリング関連労働者組合) 47, 48, 51
SAFTU(南アフリカ労働組合連合体) 43, 44, 61
SAMWU(南アフリカ地方自治体労働者組合) 52, 53
SAVE(社会的認識と自主教育) 127
SEWA(自営女性協会) 100, 108, 110, 123, 124, 133, 134
SLD(労働・開発協会) 116, 129
UGT(一般労働組合) 84, 85
WV / Women's Voice(女性の声) 128, 132
WWF(I)(インド働く女性フォーラム) 128, 129, 132

あ行

「新しい労働運動」 序章, 29, 59, 69, 92, 99-109, 133-135, 169-173
新しい労働組合主義 16, 69, 92, 93
インド 1, 3-6, 14-19および第3章
——労働会議 120

か行

改革開放 146, 151, 157
会議派システム 102-105
官製労働組合 17, 141, 142, 152
共産党 30, 71, 111, 143, 147

軍事政権 70, 71
計画欠勤 37
経済自由化 107
権威主義 13, 71, 90, 105, 133
——(的)体制 8, 9, 31, 36, 69, 71-73, 83,
90, 92, 93, 169
権利アプローチ／権利を基盤とするアプローチ
130, 131
権利保護型 165
工会 3, 5, 17および第4章
——改革 172, 173, 175
——改組 173
交渉評議会 39, 55, 58
コーポラティズム 18, 39, 83, 89
——体制 71-73
コミュニティ 8, 9-13, 35, 106

さ行

細分化(involution) 102, 105
三者同盟 38-40, 43, 59
自主管理労働組合 149, 155, 169
社会運動ユニオニズム 7-9, 11-15, 29-32, 36,
38, 59
社会正義 12-14, 122, 131, 132
シムニエ労働者フォーラム 58, 59
従来型労働運動 1, 2, 11-13, 19, 133, 134, 141
新興国型の新しい労働運動 2, 12-18, 69, 92,
99, 101, 105, 106, 109, 133, 151, 152,
169, 174
清掃労働者 131

た行

団体協議 167, 168
団体交渉 1, 11, 20, 39, 56, 58, 126, 155-157,
162, 163, 165, 168, 172-174
——推進型 163, 165, 171, 173
仲介業者 48, 50-53, 56-58
中国 1, 3, 5, 14, 17-19および第4章
天安門事件 144-153, 169, 170, 173, 174
統一労働法(CLT) 71, 74
独立系労働組合 16, 69, 71, 79および第3章

な行

ニュー・ヴォイス 10
年金改革 80, 82-85, 89, 92, 93
農民工 17-19および第4章

は行

バビ(Zwelinzima Vavi) 42, 43, 61
ビジネス・ユニオニズム 11, 12
非常事態宣言 35, 37, 104
非常事態体制 104, 106
非正規労働者 3, 16, 17, 19, 30, 31, 48, 51-54,
57, 58, 60, 61, 107, 157
フィリピン 7-9, 31, 151
複数組合 102, 103
不買運動 36, 159
ブラジル 1, 3, 5, 7, 15, 16, 18, 19および第2章
——コスト 74
——社会主義大会 71
——の奇跡 72
文化活動型 165
分裂 19, 41-44, 60, 61, 83-85, 102, 111, 131
包摂・権利擁護型労働運動 2, 12-14, 16, 17,
19, 99-101, 106-109, 116, 117, 122-134,
152, 174
ボルソナロ(Jair Bolsonaro) 70, 87-93

ま行

マリカナ 41-43, 56
南アフリカ 1, 3, 5, 7, 8, 15, 16, 18, 19および
第1章
民工荒 158, 167

ら行

ルーラ(Luiz Inácio Lula da Silva) 73, 80-
83, 89
労組納付金 3, 70, 82, 83, 85, 87-93
労働NGO 6, 12, 58, 60, 142, 153, 156-166,
169-175
労働関係法 37, 39, 53, 55-57
労働組合組織率 3-6, 46, 51, 54, 76, 90, 92, 93

労働災害 154, 158, 161-166
労働者党 70, 79-89, 92, 93
労働争議 1-3, 5, 6, 54, 56, 103, 154, 166, 167
労働仲裁 154, 162
労働弁護士 156, 157, 160-170, 174
労働力調査 49

わ行

ワーカーセンター 11, 12

執筆者一覧

おおた ひとし
太田 仁志 (アジア経済研究所地域研究センター南アジア研究グループ)

さとう ちづこ
佐藤 千鶴子 (アジア経済研究所地域研究センターアフリカ研究グループ)

こんだ りょうへい
近田 亮平 (アジア経済研究所地域研究センターラテンアメリカ研究グループ)

やまぐち まみ
山口 真美 (アジア経済研究所新領域研究センタージェンダー・社会開発研究グループ)

—執筆順，所属は刊行時—

〈表紙写真〉

（表表紙）

南アフリカ労働組合会議（COSATU）による
デモ。南アフリカ共和国ケープタウン。2017
年9月27日。ロイター／アフロ

（裏表紙）

サンパウロ市で反政府集会を行うブラジル最大の
労働組合CUT。2017年10月。近田亮平撮影

訂正履歴

（2021年4月8日）執筆者一覧中のルビと表表紙キャプションの一部を訂正致しました。
（2022年7月5日）コピーライト表記を修正しました。

新興国の「新しい労働運動」 ——南アフリカ、ブラジル、インド、中国——

EPUB版 2021年3月17日発行
オンデマンド版 2021年3月25日発行

編 者 太田仁志
発 行 独立行政法人日本貿易振興機構 アジア経済研究所
〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉3丁目2番2
(電話) 043-299-9735

©Hitoshi Ota and The Authors 2021 無断転載を禁ず

ISBN 978-4-258-04647-8

